

令和4年度 第1回三条市環境審議会会議録

- 1 日 時 令和4年8月9日（火）午後2時00分～3時25分
- 2 場 所 三条市役所 4階 全員協議会室
- 3 出席委員 渡邊誠介 近藤雄介 田中修作 名古屋金市 熊倉睦
米田和広 川崎光枝 内藤一恵 長谷川正樹
(以上9名)
(欠席委員 林八寿子 高橋由紀子 土田栄林 上村康司
大沢昌一郎)
- 4 市出席者 上原市民部長 五十嵐環境課長 佐藤環境政策担当主査
西川環境衛生係長 坂上生活安全・交通係長 目黒ごみ減量係
長 江口主事 阿保主任
- 5 傍聴者 なし
- 6 報道機関 (株)三条新聞社 越後ジャーナルクラブ
- 7 会議概要
 - (1) 開会
 - (2) 市民部長あいさつ
 - (3) 自己紹介
 - (4) 議事
 - ア 第2次環境基本計画の振り返り（報告）
事務局から、資料No. 3、4により説明あり

長谷川委員： P10 重点的取組 No. 7 ものづくりの技術を生かした再生可能エネルギーの利用促進について、今後の発展的取組は検討していないとある。水力、風力発電など、二酸化炭素を排出しない電力の取組を検討してほしい。

五十嵐課長： 市が主体となり、要素技術を一から開発することは難しいということである。

脱カーボン検討の中で、再生可能エネルギーの活用は重要であることから検討を進めたい。

内藤委員： 資料 No. 4 の数値目標は何を基にどのタイミングで作成されたのか。

西川係長： 平成 26 年度に第 2 次環境基本計画を策定する際、数値目標を掲げ計画と一緒に作成したものである。未達成な取組については、第 3 次作成の際に再度検討したい。

米田委員： 三条市が発行している環境の冊子の中で環境基本計画を推進していくために PDCA サイクルを基本とした進行管理を行うとある。資料 4 の項目のいくつかでよいので、どのような課題を見つけ、どのように施策を重点的に取り組んできたのかについて具体的な事例を教えてほしい。

西川係長： 重点的な取組の 3 点を中心的に重点施策として、取り組んできた。それぞれの小項目について、主要施策等 38 事業に取り組んだ。

五十嵐課長： 毎年、環境審議会へ取組状況を報告する中でいただいた意見を活かしてきたところである。今回は、第 2 次計画の振り返りを行い、第 3 次計画に生かすことで、PDCA サイクルによる進行管理に当たるものと考えている。

渡邊会長： KPI（重要業績評価指標）について優良可など、全体的に指標で表すと PCDA サイクルが回しやすいと思われる。次回以降の資料作り方の検討をお願いしたい。

熊倉委員： もみ殻処分は農家にとって一番の問題である。燐炭は国に認められているが、周囲に配慮が必要であり、環境の問題もある。ペレットの機械化を進めてほしい。

世界情勢から肥料の価格が高騰している。給食残さ等を活用した堆肥化を進め、農家に供給してほしい。今後、時世も変わったので、新たな取組を検討してほしい。

五十嵐課長： もみ殻を固形燃料化する事業を平成 30 年度から令和元年にかけて行ったが、市内の技術を活用しても商業化が難しいことがわかり断念した。その際、農林課とも、今後のもみ殻の活用方法等について相談しており、その中で、もみ殻については、すきこみを行うことを優先として考えていた。今後についても農林課と連携して検討を進めていく。

長谷川委員： P27、28 公共交通の充実について、循環バスの統廃合について記載があるが、公共交通のニーズ調査は行ったのか。

五十嵐課長： ニーズ調査は行っていないが、循環バスを運営している越後交通と今後の需要予測を立てた中で、どのような形態をとるのが最適かを検討しているところである。

長谷川委員： 地方においては、公共交通としてのバスの役割はほとんど終わったのではないかと考えている。高校生も電車やバスの利用が減り、保護者の送迎が増えている。バス路線の新設は赤字につながると考えている。デマンド交通の停留所についても、高齢者は歩いて行くことが困難であり、タクシーを利用することになる。財政的に厳しいとは思いますが、タクシー補助券のようなものを検討してはどうか。

五十嵐課長： 公共交通の利用が減っており、選択と集中が必要であると考えている。デマンド交通の停留所については、300mを目安に設置を進めており、停留所の増設については柔軟に考えている。ただし、タクシー事業者との調整も必要であることから、どうしても増設が必要となれば、具体的に相談してほしい。タクシーの補助については、財政的な面で厳しい。デマンド交通とバスをどのようにしたらよいか見直し、検討を行っている最中である。

長谷川委員： 行政の立場として、バスの廃止は難しいと思うが、どの程度の利用があったらバス路線を残すか等、基準を作してほしい。車に乗れなくなったときは、歩くことが困難になっている。大胆な見直しを検討してほしい。

イ 地球温暖化対策実行計画【区域施策編】について（報告）
事務局から、資料 No. 5 により説明あり

ウ 第3次環境基本計画策定について（報告）
事務局から、資料 No. 6 により説明あり

名古屋委員： 現計画では、里山の環境として、農業分野やバイオマス発電についての記載がある。そのほかに獣害が拡大してきており、イノシシやシカが人里に近づいてきている。三条市もサル・クマ対策

等を行っていることから、里山環境の整備として次期計画で盛り込んでどうか。

五十嵐課長： 第3次環境基本計画の中で里山の環境整備をどう位置づけるかを、今後検討したい。

米田委員： ①温暖化対策実行計画を環境基本計画に盛り込むという説明だが、気候変動適応計画については、想定していないということか。

②計画統合の考え方として、環境基本計画は環境施策に対する大まかな方針を定めているもので、個別の取組は個別計画で策定するイメージであるが、温暖化対策実行計画の部分ではある程度細かい施策も含めて計画を策定するということでよいか。

③次期計画は現計画を継続していくということだが、計画全体にSDGsの目標の解決に取り組むことを盛り込むといったことは考えていないのか。

西川係長： ①気候変動適応計画の策定については考えていない。②計画を統合することで、環境審議会の中で進捗管理を行っていききたい。③SDGsの考え方については、計画策定の中で検討していききたい。

渡邊会長： グリーントランスフォーメーション等社会的な改革を進めていく話が出ているが、今回策定する環境基本計画の中で整合を図っていくような考えはあるか。

五十嵐課長： 本日の意見やトレンドを踏まえ、計画にどのように盛り込めるか検討していききたい。

長谷川委員： 今後もPDCAサイクルを取り入れていくのか。

五十嵐課長： 会議自体がPDCAの一部と考えている。今後は、改善の視点も含めて資料を作成したい。

名古屋委員： 環境審議会委員の中で関係行政機関の職員として地域振興局から2名の委員が参加しているが、県から意見や指導助言といった連携は行われているのか。

五十嵐課長： 具体的な指導助言はなかったが、この審議会を通して県の意見をもらう場であると考えている。県の計画と当市の計画の整合性

を図るという観点から、今後も2名の委員の意見を伺いたい。

長谷川委員： 環境マスコットキャラクターのエコちゃんサンちゃんを積極的にPRして行ってほしい。

(5) 閉会